

1 単元について

対象学年	中学校 第1学年
学習指導要領	E 球 技
単 元 名	「バレーボール」 （全14時間）
単 元 目 標	<p>(1) 技 能（運動の技能） カバールの動きを身に付け相手コートに体を向けて返すことで、ボールを整え3本以内で送り合って返すゲームができる。</p> <p>(2) 態 度（運動への関心・意欲・態度） 進んで動きを示したり、コート内で声をかけ合ったりすることで、教え合い励まし合って活動できる仲間になる。 ルールやマナーを守ってバレーボールを楽しむことができる。</p> <p>(3) 学び方（運動についての思考・判断、運動についての知識・理解） POカードやゲーム記録の分析から、グループや個人の課題を明らかにし、作戦を立てたり練習の仕方を工夫したりすることができる。</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 単元指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校3年間で毎年履修する場合の1年目として、ラリーが続く楽しさを味わうことができるようにゲームを中心とした指導過程を工夫する。 ・ゲームにおいては、相手とのボールのやり合いをするところにその楽しさがあるので、ゲームの様相を高めるために、生徒の実態に合わせ必要な攻防プレーや連携動作の内容を指導する。 ・ゲームの様相を高めていくために、一人一人に何が課題となるかを明らかにし、その達成ぶりを確かめていくことができるようにする。 ・バレーボールは、集団の高まりがそのままプレーに影響するため、目指す仲間の姿を明確にし、励まし合いや教え合いの声を大切にする。 ・技能が思うように高まらない生徒に関わるトラブルが予想されるためどんな声をかけるべきかを提示し、積極的に援助活動を行っているグループを認め価値付けるとともに広めていくようにする。 <p>単位時間の工夫 <計画の場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの課題や個人の課題を見付けるためのPOカードやゲーム記録を作成し、その活用の仕方を理解して的確に課題をつかむことができるようにする。 ・ゲームの様相を頭の中に思い描くためにVTRを活用して、イメージをもつことができるようにする。 ・前時にみられた仲間の価値ある姿と仲間意識を広め、どんな集団を目指すのかが分かるようにする。 <p><展開の場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習やゲームでは、集団技能の高まりに結び付く個人技能の向上を目指して、互いの課題を意識し合って活動する場を意図的に仕組む。 ・中間研究会では、前半のグループ練習をゲームの中にどう生かすか、動きを高めるための視点を明確にしたグループの話し合いができるようにする。 ・技能が十分身に付いていない生徒にかかわるトラブルが起きないように、援助が必要なグループや生徒を中心に指導する。 <p><評価の場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・POカードやゲーム記録をもとに、めあてに対する成果と問題点をグループと個人の両面から話し合い、次時につなげることができるようにする。 ・MOカードをもとに、目指す集団になれたかを振り返る中で、具体的な事実をもとによさを認め合うとともに、次時に目指す仲間の姿を明確にする。
参 考 資 料	<p>資料1：学習ノート・・・個人のめあてをもたせるために使用 資料2：POカード・・・課題達成度（技能）の記録として使用 資料3：MOカード・・・規範生成度（態度）の記録として使用 資料4：ゲーム記録・・・ゲームの様相を把握し、個人やグループの課題を分析するために使用</p>

2 単元の評価規準

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動についての知識・理解
内容のごまとのま評価規準	球技の特性に関心をもち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組もうとする。また、チームにおける自分の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームをしようとするとともに、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。さらに、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。	チームの課題や自分の能力に適した課題の解決を目指して、ルールを工夫したり作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。	選択した球技種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。	選択した球技種目の特性や学び方、技術の構造、合理的な練習の仕方を理解するとともに、競技や審判の方法を理解し、知識を身に付けている。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや作戦に応じて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさや喜びを味わおうとする。 (楽しさ体験) ・チームにおける自分の役割を自覚して責任を果たしたり、教え合ったりして互いに協力しながら、進んで練習やゲームをしようとする。 (社会的態度) ・ルールを守り、審判の判定や指示に従い、勝敗や結果を受け入れようとする。 (社会的態度) ・施設・設備の安全や用具の管理をする、危険なプレーをしないで練習やゲームするなど、健康・安全に留意しようとする。 (安全な態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のチームや相手チームの技能の程度を把握し、それに応じた練習計画や作戦を工夫したり、立案することができる。 (課題達成) ・目指すゲームの様相になれたか、目指す仲間の姿になれたかを振り返る (評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパスやアンダーハンドパスでボールを上げたり、カバーしたりしてボールをつなぐことができる。 (技能向上) ・1本目を高くあげ2本目をオーバーハンドパスで整え3本目を相手コートに送り合って返すゲームができる。 (技能向上) ・バレーボールの審判をすることができる。 (審判) 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの特性や学習の進め方、集団的な技能や個人的な技能の構造、合理的な練習の仕方、練習計画の立て方を知っている (運動・安全) ・競技の運営やルール、審判の方法を知っている。 (運動・安全)

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動についての知識・理解
単位時間における具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ バレーボールの楽しさや喜びを味わおうとする。 ・ 施設や用具、危険なプレーをしないなど、安全に気を付けようとする。 ・ 自分の係の役割を責任をもって果たそうとする。 ・ グループや個人の課題を意識してアドバイスしたり、励まし合ったりできる。 ・ 仲間の上達やチームの勝利を願い、力一杯活動しようとする。 ・ 審判の判定に従い、勝敗や結果を受け入れようとする。 ・ 仲間の努力を具体的な姿で振り返り、認め合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習やゲームからグループや個人の課題を明らかにすることができる。 ・ グループの課題に合った練習方法を選択することができる。 ・ 目指すゲームの様相になれたか、目指す仲間の姿になれたかを振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前後左右に移動してボールの下に入り、方向を定めたオーバーハンドパスやアンダーハンドパスができる。 ・ オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの使い分けができる。 ・ ボールを受ける人を囲むようにカバーに動くことができる。 ・ 1本目をコート中央に高く上げ、2本目はオーバーハンドパスで柔らかく整える。3本目は相手コートに体を向けて確実に返すことができる。 ・ バレーボールの審判をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームの様相の発展過程を理解し、上達のための学習の進め方を理解している。 ・ 課題達成のための練習計画の立て方や練習方法を知っている。 ・ リーグ戦の運営やルール、審判の方法を知っている。

3 指導と評価の計画(全14時間)

(1) 評価規準を盛り込んだ単元指導計画

1年女子 バレーボール

単元指導計画

西濃地区I 中学校

時間	過程	学習内容		評価の観点及び方法						
		運動の側面	集団の側面	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解			
1	計	カパーの動きを身に付け相手コートに体を向けて返すことで、ボールを整え3本以内で送り合って返すゲームができる。	進んで動きを示したり、コート内で声をかけ合ったりすることで教え合い励まし合って活動できる仲間になる。	・バレーボールの楽しさや喜びを味わおうとする。 (学習カード・観察)			・ゲームの様相の発展過程を理解し、上達のための学習の進め方を理解している。 (学習ノート)			
2	展	基底技能を身に付けることができる。 ・オーバーハンドパスやアンダーハンドパスの手の形や構え方	リーダーの指示でまとまって活動できる仲間になる。 ・自分の係の仕事の果たし方 ・リーダーの活動の指示 ・一人一人の参加態度	・施設や用具、危険なプレーをしないなど、安全に気を付けようとする。 (MOカード・観察)	・前後左右に移動してボールの下に入り、方向を定めたオーバーハンドパスとアンダーハンドパスができる。 (POカード・観察)	・課題達成のための練習計画の立て方や練習方法を知っている。 (学習ノート・観察)				
3							相手コートに返し合うゲームができる。 ・ボール下への入り方 ・オーバーとアンダーの使い分け	自分の係の役割を責任をもって果たそうとする。 (MOカード・観察)	・練習やゲームからグループや個人の目標を明らかにすることができる。 (学習ノート・観察)	・オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの使い分けができる。 (POカード・観察)
4										
5		3本以内で送り合って返すゲームができる。 ・1本目をコートの中央に高く上げる ・2本目はオーバーハンドパスで柔らかく整える ・3本目は相手コートに体を向けて確実に返す	グループや個人の課題を意識してアドバイスしたり、励まし合ったりできる。 (MOカード・観察)	・1本目をコートの中央に高く上げ、2本目はオーバーハンドパスで柔らかく整える。3本目は相手コートに体を向けて確実に返すことができる。 (POカード・観察)						
6					リーグ戦 ・学習の成果の発揮 ・3本以内で送り合って返すゲームができる					
7							リーグ戦成績(勝敗・順位) 課題達成度 ・グループ成績(返球率・三本返球率) ・個人成績(パス成功率)	個人のきまりの守りぶり 仲間としての心の結び付き	・仲間の上達やチームの勝利を願い、一杯活動しようとする。 (MOカード・観察) ・審判の判定に従い、勝敗や結果を受け入れようとする。 (観察) ・仲間の努力を具体的な姿で振り返り、認め合おうとする。 (学習ノート・観察)	・目指すゲームの様相になれたか、目指す仲間の姿になれたかを振り返ることができる。 (学習ノート)
8		・リーグ戦の運営やルール審判の方法を知っている (観察)								
9										
10		開								
11										
12										
13										
14	評									

1年女子 バレーボール

単元指導計画

時 間	過 程	学 習 内 容		学 習 活 動		教 師 の 指 導				
		運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 ・ 集 団 の 側 面	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面				
1	計 画 会	カバールの動きを身に付け相手コートに体を向けて返すことで、ボールを整え3本以内で送り合返すゲームができる。	進んで動きを示したり、コート内で声をかけ合ったりすることで教え合い励まし合って活動できる仲間になる。	・先生の説明を聞いて学習全体の見通しを持つ。 ・グループで学習計画を立てる。 *役割 リーダー、P.O、M.O、ノート、ボール、セツク *1グループ5～6人、全6グループ (グループ間等質、グループ内異質)	・めざす姿(ゲームの様相)とそのためのステップをVTR等で説明し、ゲームの発展の見通しをもたせる。	・具体的な仲間づくりの事例から、めざす仲間の姿とその価値を語り、目標や願いをもたせる。				
2	展 開	基底技能を身につけることができる。 ・オーバーハンドパスやアンダーハンドパスの手の形や構え方	リーダーの指示でまとまるとして活動できる仲間になる。 ・自分の係の仕事の果たし方 ・リーダーの活動の指示 ・一人一人の参加態度	《対人練習》 ・ベアで、ホールディングパスから徐々につかむ時間を短くしていく。 《移動円陣パス》 ・移動しながらパスを続ける。 ・全員がカバーする方向に動く。 《ミニコートでの練習》 ・バドミントンコートを使い、(L)活動の指示 ネットを高くする。(PO)記録の提示 ・3対3でゲーム形式で練習する。(MO)活動のきまり点検	・ボールを十分飛ばせない生徒には、低い姿勢をとらせひざのバネをつかってパスする感覚をつかませる。 ・ボールとの距離感がつかめない生徒には、少し下がって構える前に踏み込みながら受けるように助言する。 ・ボールがどこに飛来するか声を出して予測し、その方向に体を向けるように指示する。 ・パスをキャッチし、その時のカバーの位置と方向を確認するよう指示する。 ・ゲーム記録や観察から誰のどの方向にカバーが必要か明らかにさせる。 ・カバーに動けないグループにはゲームを止めて一人一人をコート内で動かしてみる。	・各自が自分の仕事をしテキパキと活動している班を認め、リーダーの役割の果たしぶりにつなげて価値付ける。 ・大きな声を出して積極的にボールに向かっている生徒やグループの意欲や参加姿勢を認める。 ・声の少ないグループには話し合いをさせ、勝ちにこだわり一生懸命に取り組む気持ちをもたせる。 ・同時に、運動の課題と動きを高める声を結び付け、具体的な視点を与えて援助させる。				
3							相手コートに返し合うゲームができる。 ・ボール下への入り方 ・オーバーとアンダーの使い分け	進んで動きを示したり、コート内で声をかけ合ったりすることで、協力し合って学習できる仲間になる。 ・アドバイスの仕方 ・励ましの仕方 ・援助に対する応え方	《オールコートでの投げ入れ練習》 ・前衛と後衛3人組で入れかわる。 ・後衛は自分の前の前衛にボールを上げる。 ・ラリーが続くようになったら1-5のレシーブ隊形でローテーションする。 《オールコートでのゲーム形式練習》 ・3点連続して得点したらチームを入れかえていく。(L)活動の援助 (PO)ゲーム記録のまとめ・提示 (MO)援助のきまり点検	・よいプレーには「ナイス」の声をかけ拍手をしたり、失敗した時には「ドンマイ」の声をかけ、ボールが落ちたときには、その場でアドバイスをしたりするように指示する。 ・コート内で仲間に関わっている姿や、仲間の声に応え精一杯ボールに向かっている姿を具体的事実をあげ認め価値付ける。 ・リーグ戦の勝敗にこだわり声をかけ合って認め合いや励まし合いを活発に行っているグループを認める。
4										
5		3本以内で送り合返すゲームができる。 ・1本目をコートの中央に高く上げる ・2本目はオーバーハンドパスで柔らかく整える ・3本目は相手コートに体を向けて確実に返す	個人のきまりの守りぶり 仲間としての心の結び付き	・グループで学習活動全体を振り返る。 *課題の達成ぶりについて *役割の果たしぶりについて *きまりの守りぶりについて *仲間としての心の結び付きについて	・個人技能や集団技能の高まりとその高まりを生み出した取組を認める。 ・また次の単元への財産をまとめ、意欲付けをする。					
6						リーグ戦 ・学習の成果の発揮 ・3本以内で送り合返すゲームができる				
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14		反 省 会	リーグ戦成績(勝敗・順位) 課題達成度 ・グループ成績(返球率・三本返球率) ・個人成績(パス成功率)							

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時の目標

技能：1本目を真上に高くあげ、カバールの体制をとって2本目をつなぐことで、助け合って返し合うゲームができる。

態度：進んで動きを示したり、コート内で声をかけ合ったりすることで協力し合って学習できる仲間になる。

学び方：ゲーム記録の分析から、グループや個人の課題を明らかにし練習やゲームに生かすことができる。

(2) 本時の位置

7 / 14時

(3) 展開案

バレーボール

西濃地区 | 中学校

条件	学 習 内 容		学 習 活 動	教 師 の 指 導										
	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 ・ 集 団 の 側 面	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面									
計 画 会 8 分	<ul style="list-style-type: none"> 器具の準備 準備運動 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 1本目を真上に高くあげ、カバールの体制で2本目をつなぐことで助け合って返し合うゲームができる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> G課題、個人課題と技術ポイントの確認 	<ul style="list-style-type: none"> そろってテキパキと行動 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 進んで動きを示したり、コート内で声をかけ合ったりすることで協力し合って学習できる仲間になる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 目指す仲間の姿と行動の仕方の確認 	<ul style="list-style-type: none"> <全体会> 本時の課題の意味とその達成のためのポイントを確認する。 <グループ計画会> 前時の姿から本時の課題と個人課題、練習方法を確認する。 目指す仲間の姿ときまりを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> めざすゲームの姿をVTRで観察し、イメージをもたせる。 1本目は、膝を曲げて構えボールを真上に高く上げる、2本目は、受ける人の方へ体を向け1歩踏み出して上げる動きを取り上げる。 課題意識の弱い1班、4班のリーダーが適切なグループ課題を立てているか見届ける。 前時のゲーム記録から、本時の課題に対する見方を示し、具体的な動きがイメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に見られた具体的な事実から、本時に達成したい仲間の姿を明らかにする。 ボールに対して積極的になれず萎縮しがちな生徒に対してリーダーを中心に励ましの声をかけるよう助言する。 仲間の中に入っていこうとしない4班の児童に対して温かい言葉かけができてきているかを見届る 									
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 前半練習 1本目をあげる時のカバールの仕方を確認する ボールを上げる人の方へ体を向け囲むような体制をつくる。 ボールにさわる人以外の足が常に動いているようにする。 研究会 前半練習を振り返り、後半練習のめあてを確認することができる 後半練習・ゲーム 1本目...ボールに正対し膝を落として真上に高く上げる。 2本目...カバールの体制をとりボールの下に素早く入って上げる。 3本目...安定して返す。 ボールがそれた時にはカバールに走りコート中央に戻す。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間の上達のために、課題を常に意識させる声や、お互いの動きを指示する声をかけ合うことができる。 失敗した時には、必ず励ましの声とアドバイスをすることができる。 成功した時やよいプレーには拍手をしたり、「ナイス」の声をかけたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> <グループ練習> 半コートで、ボールの投げ入れから助け合っつなぐ練習をする。 前衛と後衛3人組で入れかわる。 後衛は自分の前の前衛にボールを上げる。正しい構えをつくり、計画会で確認したカバーリングができるように練習する。 <中間研究会> 前半練習での課題達成度を交流し合い、後半練習・ゲームでのグループや個人のめあてをはっきりさせる。 <練習ゲーム> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>2班対3班</td> <td>4班対5班</td> <td>審判1班</td> </tr> <tr> <td>3班対4班</td> <td>1班対5班</td> <td>審判2班</td> </tr> <tr> <td>1班対3班</td> <td>2班対5班</td> <td>審判4班</td> </tr> </table> <p>7分1セットマッチ</p>	2班対3班	4班対5班	審判1班	3班対4班	1班対5班	審判2班	1班対3班	2班対5班	審判4班	<ul style="list-style-type: none"> カバーの体制に動けない生徒には、メンバーの声で意識をもたせるように助言する。 動けないグループには、ボールをキャッチしながら1回1回カバーの体制を確かめる。 さらに動けない生徒には、教師がついて押し動かす。 1本目を高くあげることができない生徒には低い姿勢をとりボールから目を離さず、前に踏み出して手にあてていくように練習させる 膝が伸びてつ立ち状態になりやすい班に対して、構えを要求する声をかけ合うように助言する。 ボールに対する反応が遅れがちな1班には、受ける人の名前をコート内で呼び合うよう助言する。 ボール操作が十分できない生徒について少しでもさわったら周囲がカバーしてボールを上げるよう助言する 【技能】 ボールを受ける人を囲むようにカバーに動くことができる。 ボールの位置によってかけ声と動きをつないで示してやることで課題に迫る動きを高める 	<ul style="list-style-type: none"> ボールに対し積極的になれない生徒には、名前を呼んだり励ましの言葉をかけたりするように指示する。 上手くなろうと一生懸命練習している生徒をその場で賞賛していく。 仲間の課題をボールをうける瞬間に声に出して言うとういことを助言する。 上手くできない生徒の近くまでいって構えを教えたり、動き方を教えたりしている姿を認め価値付ける。 カバーに走らないグループには、リーダーやMOに頑張りを要求する声を出すように助言する。 ともすると失敗を笑われたり非難されたりしがちな生徒に対してメンバーがどのように関わっているかに留意する。 グループのムードが沈みがちな班には得点した時に拍手をして喜び合うことを助言する。
2班対3班	4班対5班	審判1班												
3班対4班	1班対5班	審判2班												
1班対3班	2班対5班	審判4班												
反 省 省	<ul style="list-style-type: none"> グループ課題、個人課題についてグループで振り返る 本時の課題の達成の様子について学級全体で振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> きまりの守りぶりや行動についてグループで振り返る。 本時の目指す仲間の姿について全体で振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに輪になって、リーダーを中心に運動、集団の両側面から反省会を行う。 PO、MOはそれぞれの立場から、本時の観察結果を報告する。 本時の学習を振り返り、次時の学習への課題を意識しながら先生の話聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム記録やPOカードから本時の課題達成度を振り返り、次時の課題をもつようにグループを巡視して、リーダーに働きかける。 全体会で特にカバーによく動いていたグループをとりあげ、具体的事実を示して価値付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> MOカードのきまりの点検結果から、グループの援助活動の様子を振り返り、グループ内で認め合う姿勢をもたせる。 進んで動きを示したり声をかけたりしていた生徒の心情を語らせることで、仲間への思いを認め価値付ける。 									

5 評価の実際と個に応じた指導事例

<p>「運動の技能」の評価規準</p>	<p>前後左右に移動してボールの下に入り、方向を定めたオーバーハンドパスやアンダーハンドパスができる。 (第3時間目に評価)</p>	<p>オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの使い分けができる。 (第5時間目に評価)</p>	<p>ボールを受ける人を囲むようにカバーに動くことができる。 (第7時間目に評価)</p>	<p>1本目をコート中央に高く上げ、2本目はオーバーハンドパスで柔らかく整える。3本目は相手コートに体を向けて確実に返すことができる。 (第10時間目に評価)</p>
<p>評価方法</p>	<p>教師の観察、POカード</p>	<p>教師の観察、POカード</p>	<p>教師の観察、ゲーム記録</p>	<p>教師の観察、ゲーム記録</p>
<p>「努力を要すると判断した状況」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボールが飛んできて、さわることができない。 ボールにさわっても、上げる方向が定まらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 前衛であっても、どんなボールもアンダーハンドパスで受けてしまう。 大きく飛ばすべきボールでもオーバーハンドパスで受けてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の周りにボールが上がっても、うまく反応ができない。 仲間でミスをしたときに、素早くカバーの動きができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 1本目のミスが目立ち、うまく2本目につなげられない。 ボールが飛んでくると慌ててしまい、球すじが意識できない。 ネット際に落ちるボールをネットにかけてしまう。
<p>その要因</p>	<p><オーバーハンドパス> ボールとの距離感がつかめず、落下地点が読めない。 筋力が弱く、はじく感覚がつかめない。 <アンダーハンドパス> 膝が伸び、肘が曲がってしまいボールを引きつけられない。 ボールを強く打ちすぎてしまう。</p>	<p>つき指を恐れてすぐ手を組んでしまい、アンダーハンドパスが多くなる。 また、ボールのあたる上腕部分が痛いので、オーバーハンドパスでとろうとする。 ボールとの距離感がいまだにうまくつかめず、構えた時、膝を曲げアンダーハンドパスの姿勢のまま固まってしまう。</p>	<p>ボールの飛んだ方向に、体を向けることができないために、1歩踏み出すことが遅れてしまう。 自分が今どんな姿にあり、何を課題としなければならないかの理解が不十分であり、チームとしても共通理解ができていない。</p>	<p>ボール操作の未熟さが原因となり、前時までのつまずきが継続している。 ゲームの場面になると緊張感から、あせってしてしまう。 2本目をアンダーハンドパスで上げようとしてネットにかけたり、方向を換える操作につまずきがある。</p>
<p>指導の手だて</p>	<p>【の手だて】 エンドラインに立ち、ボールが投げられたら走って行って、ボールの下にもぐり込んで受けることを連続して行い、落下点を読む練習</p>  <p>【の手だて】 膝のバネをはじめとした全身の筋肉を使ってボールを飛ばす練習。 直上パスで10cm程度のはじきを連続して行ない感覚をつかむ練習。</p> <p>【の手だて】 膝を曲げた状態で構えさせ、肘が曲がらないように教師が後ろから補助した状態でボールを捕らえる練習。 肘が曲がらないように板で固定してボールを受ける練習。</p> <p>【の手だて】 バドミントンコートを使いネットを高くして張って3対3のミニゲームを行う中で、あたる瞬間に肘を少し押し出し、膝を伸び上げ、ボールの勢いを弱くする感覚を身に付ける練習。</p>	<p>【の手だて】 女子に多く見られる、手が痛い、ボールが怖いといった理由でうまくプレーできない生徒には、ソフティボール等の初心者用ボールを用いて物理的な負荷の軽減を行う。 ゲームの中では、前衛の時は、サーブがくる前に手を上げて構えるようにする。</p> <p>【の手だて】 ボールに近づきすぎてしまうことが多いので、ボールより一歩後ろで待って、踏み込みながらパスをすることを繰り返し練習する。 コート縦半分にして使い、3対3のミニゲームを行う練習をする。 ゲームの中では、膝を曲げた状態で構えさせ、ボールが飛来したら、サイドコーチから「オーバー」「アンダー」の声をかけさせ、受ける練習をする。 ・サイドコーチの判断のめやす ネット前にはオーバーハンドパスを多く使うことを意識させ、後衛にいる時は強いボールや大きなボールに対してはアンダーハンドパスで受けるようにする。</p> 	<p>【の手だて】 反応を素早くカバーリングに入るために、1-5のレシーブ隊形をとり、ボールの投げ入れからキャッチし、キャッチした者以外の動き方を1回1回確かめる。</p>  <p>カバーリングの意識を高めるために、チームとしての熱い思いを持ってゲームに参加する仲間意識を高めるようリーダーに指導し、声のかけ合いを組織する。</p> <p>【の手だて】 ゲームとゲームの間に、そのゲームで見られたカバーの必要があった場面をリーダーを中心に説明しながら再現させる。 学習ノートに朱書きを入れたり、作戦盤を使ってどう動いたらよいか動きを確認するとともに、そのときに必要な声の連携を具体的な言葉で確認する。</p>	<p>【の手だて】 授業導入時のバドミントンにおいて、教師やリーダーがマン・ツー・マンで基底技能の定着を図る。</p> <p>【の手だて】 ゲーム中に周囲の余裕のある仲間からの動きを指示する声かけを徹底していく。 ストップ・ゲームを使い、失敗のあった場面での意識を修正しながら、具体的な動きをその場面ごとに理解させていく。</p> <p>【の手だて】 ネット際のボールは、他の場面とは少し返し方が異なるため、ネットを意識させながら、上方向のボール操作を取り上げて練習する。</p>